

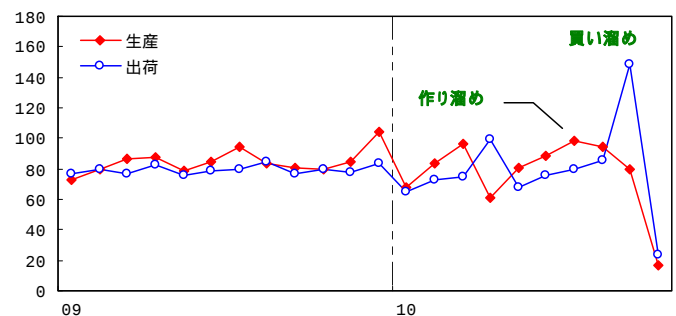
Economic Monitor

たばこ値上げと鉱工業生産

10月からのたばこ値上げが、日本経済をボラタイルにしている。日本たばこ協会の資料に基づくと、紙巻たばこの平均価格は9月までの1本あたり15.2円から10月以降は20.7円に引き上げられた。1箱20本に換算すると304円から414円への引き上げである。大幅値上げを控えた買い溜めにより、販売数量は9月に前年比88.0%と急増した後、10月には同▲69.9%と大きく落ち込み、11月も▲39.4%と低迷が続いた。

たばこ販売の落ち込みは、生産統計にも大きな爪痕を残している。鉱工業統計の10月確報から試算すると、たばこ出荷(季調値)は買い溜めに備え、9月に前月比73.9%と急増した後、10月は▲84.2%と落ち込んだ。2005年=100の指数水準で見ると、2009年平均79.5が9月に148.1まで急上昇した後、10月は23.4へ急低下している。たばこ出荷の大幅減少は、10月の鉱工業出荷全体を前月比で1%Ptも押し下げるほどのインパクトである(10月の鉱工

たばこ生産と出荷(2005年=100)



(出所) 経済産業省資料より当社試算

業出荷は前月比▲3%だが、たばこを除くと▲2%になる)。当社では買い溜め分の消化が進むにつれ、たばこ出荷は徐々に水準を戻すと考え、11月の出荷は前月比102.0%の増加を示すと予想している。しかし、それでも11月の指数水準は47.4に留まる。10~12月期にたばこ出荷は鉱工業出荷全体を0.5%Ptも押し下げると見込まれる。

10月の出荷減少は当社の想定内だが、驚いたのは10月の生産水準の大幅な落ち込みである。たばこは作り溜めが可能なため、出荷と異なり、生産はある程度の平準化が可能と考えられる。たばこの生産指数(2005年=100)は2009年平均84.7が、9月の買い溜め需要に備えて7月98.5・8月94.8と高水準で推移した後、値上げに伴う喫煙需要減を踏まえ9月には前月比▲16.3%と低下、出荷の落ち込みに先行して79.3まで水準を切り下げていた。それが10月に更に▲78.6%もの大幅減少を記録し、鉱工業生産全体を前月比で0.3%Ptも押し下げたのである。指数で見ると、10月のたばこ生産は17.0もの低水準であり、とても生産水準の平準化が成功したと言えるような状況ではない。

こうした10月大幅減産の背景には、たばこ販売回復ペースの予想以上の鈍さがあると推測される。大幅値上げにより、禁煙に踏み切ったり、喫煙本数を減らしたりする動きが広がっているのであろう。販売が回復せず、たばこ在庫が積み上がったために、10月に更に生産水準が切り下げられたのである。

たばこ生産が10月以降横ばいと仮定すると、10~12月期の鉱工業生産は前期比で0.6%Ptも押し下げられる。また、当社はたばこ消費の減少が10~12月期に個人消費を0.6%Pt、実質GDPを0.3%Pt引き下げるとも試算している。輸出減速に伴い、日本経済が「踊り場的な状況」にある下では、いずれも無視できないインパクトである。